

IMF サーベイ

IMF・世界銀行年次総会

世界の財務相、成長促進・雇用押し上げ めの政策概要を示す

2014年10月11日



シャンムガラトナム IMFC 議長とラガルド IMF 専務理事：IMFC は加盟国に対し、成長押し上げのための大胆かつ野心的な措置の導入を要請（写真：IMF）

- 世界経済は回復を続けているが、脆弱でばらつきがある
- 世界の財務相、エボラ出血熱の被害が広がる国々への支援を表明
- 低所得国向けゼロ金利融資政策の延長を支持

世界の経済回復にはばらつきがあり脆弱である。このようななか国際通貨基金（IMF）の政策諮問委員会である国際通貨金融委員会（IMFC）は本日会合を開き、成長を押し上げるとともにバランスの取れた、雇用が豊富な世界経済を促すための方策について協議を行った。

IMFC の議長を務めるターマン・シャンムガラトナム・シンガポール財務大臣は、とりわけ構造改革面での大胆な措置が必要であるとし、経済の活性化に資する経済の構成の変化に言及した。

IMFC 会合の後に行われた記者会見で同氏は「構造改革の進捗が余りにも遅く、ペースを速めなければならないという認識を我々全員が共有している」と述べた。

同氏は「我々は、潜在成長力を押し上げより良い明日を築くことができる改革を最重要視していくことになる」と述べ、「我々が緊急課題としてこれに注力しなければ、今日の問題すら解決することができないだろう。この回復のためのプロセスを完了するにあたって、長期的に行うのではなく近い将来にという視野に立つ必要がある」と続けた。

クリスティーヌ・ラガルド IMF 専務理事は、改革面での迅速な行動の必要性を強調、改革が短期的そして長期的に成長を刺激できると述べた。

「構造改革とインフラへの投資は、需要という当面の課題と供給サイドという中期的な課題双方に対処することができる」

より高い成長、より多くの雇用

IMFのワークアジェンダ（活動計画）をIMFCが承認・支持したが、これについてラガルド専務理事は心強く感じたと言った。今後、IMFはより力強い成長の実現に向け、国際社会を主に以下3分野で支援していくことになる。

- 第一に、成長と雇用を引き続き最重要課題に据える。インフラ投資の拡大は、適切に設計され実施されるならば、成長と雇用の拡大も支えることができる。
- 第二に、波及効果と戻りの問題である。加盟国は、IMFがリスクと政策の波及効果を多国間的に一貫したやり方で分析する特別な立場にあるとの認識を示した。
- 最後に、IMFは金融部門の改革の完了を推し進めなければならない。陰の銀行部門から派生するリスクを含めた世界的な規制改革、及び回復を支えることができるよう銀行を変えるための、金融安定理事会との共同作業に強い支持が表明された。

IMFCはその声明のなかで、国際租税とソブリン債再編の問題でのIMFの活動も承認した。ラガルド氏は、IMFは既に一部のソブリン債発行者が使用している、強化された集団行動条項の使用を促進していくと付け加えた。

エボラ危機

ラガルド専務理事は、エボラ出血熱で危機的状況にある国々が緊急事態にあることを強調した。エボラ出血熱の拡大はこれらの国々の経済に直接的な影響を及ぼしており、その対策を支援するためIMFは、ギニア、リベリア及びシエラレオネに対し合計1億3,000万ドルの追加融資を行うため迅速な対応をとった。

「その目的はエボラ出血熱の根絶であり、これらの国々を隔絶するためではない」と述べたラガルド氏は、これら3カ国がIMFの融資支援プログラム下にあると述べた。

さらに同氏は、低所得国向け融資のゼロ金利政策の延長をIMFCが支持したことに感謝の意を示し、近い将来IMFの理事会に対し延長提言案を提出する予定だと述べた。

ガバナンス改革

ラガルド専務理事は、2010年のクォータ改革の早期批准と実現が喫緊の課題だと述べた。同氏は、米国当局が、この合意済みのガバナンス改革及びクォータ倍増を今年末までに批准することを期待していると述べた。

関連リンク：

[コミュニケを読む](#)

[年次総会ウェブサイト](#)

[最新の世界経済見通し](#)

[グローバル政策アジェンダ](#)

[ラガルド：より高い成長とより多くの雇用を](#)